会 議 録

日 時	令和6年 10 月 23 日 (水) 14:00~16:20
場 所	総合文化センター 視聴覚室
件 名	令和6年度 第5回社会教育委員会定例会
出席者	社会教育委員：小栗正敏、加藤一哉、板橋晋司、松浦大哲、安藤裕子、有賀秀雄、伊藤孝一、浅沼克郎、 平井巖、岩島留美子、工藤剛士 事 務 局：加納素介(中央公民館長)
議 題	<p>1 挨拶(代表)</p> <p>2 伝達表彰</p> <p>3 報告及び協議事項</p> <p>(1) 東濃地区研修会・県推進大会を終えて</p> <p>(2) 「東海北陸社会教育研究大会富山大会」報告</p> <p>(3) 調査研究計画について</p> <p>「ふるさとに誇りが持てる世代間の交流促進について」</p> <p>意見 令和 8 年度にもし東海北陸社会教育大会の発表が瑞浪市に当たるとなると、今回(令和 6、7 年度)の調査研究が元になるのか、もっと以前の年度の調査研究も含まれるか。</p> <p>事務局 特に決まりはないが、R8 年度も見据えて研究していく必要がある。</p> <p>意見 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動など今現在地域や学校で行われている活動内容の調査がメインになるか。</p> <p>意見 それぞれの活動が一概に世代間交流が目的とは言えないが、実態を調べてみて意見交換することでもたまたま何か見つかるのでは、という願いも込めながら調査したい。</p> <p>意見 各地区の実態把握をしたいという思いはたしかにある。自分の住んでいる自治会は(活動が)わかるけれど、ほかの自治会の行事までは実際に知らないので区長さんなどにアンケートをとると見えてくることもあるのでは。</p> <p>意見 今回の調査研究では各社会教育委員が学校や公民館などに赴いて聞き取りなどを行うかどうかの方式の確認をしたいが。</p> <p>意見 区長会にお願いをすれば各地区の年間活動計画はある程度把握できる。社会教育委員としてどのように関わっていけばよいか目指すところがわからない。おおよその方向性を決めておきたい。</p> <p>代表 社会教育委員は地域のコーディネーターであると思う。自分の地域で何が行われているのか知ることは第一の前提だと思う。これから自分の町をどうやって作っていくか、ということを提言していくことが役割の一つ。地域の成果と課題は各地区によって異なるので、それらを集めたときに瑞浪市全体のことがはっきりしてくるのでは。その中でふるさとに愛着が持てる世代間交流について、こういうことをしていけばいいですよという提言を教育長にしていきたい。</p> <p>意見 (地域独自の)公民館があるところはよいが、瑞浪土岐明世地区はなかなか情報が集めきれない。</p>

事務局 中央公民館は瑞浪土岐明世地区の公民館という位置づけだが、現状では地区公民館ほどの活動や機能があるわけではない。一方市役所の西分庁舎に集落支援員が位置づいており、地域や学校の活動に関する情報をいろいろ持っている。

意見 公民館機能の課題について提言に入れることもいいと思うが、今回の調査研究と分けて考えないと混同してしまって埒が明かない。(独自の公民館を持たないという)3地区の現状を踏まえて、進めていける方法を探していくことが必要。この地区の学校に空き教室を使えるようにしてもらって、そこに人員を配置してもらおう、という要望を出すならわかるが。調査は、前段階で(アンケート用紙を)作っておいて、詳しく聞きたいところは個別に聞いては。ふるさとに誇りを持てるようになったか、どのように測るかが課題。事業に実施者と参加者両方の感じたメリットをつかんでいかないと。

意見 地域によって状況が違うし、(瑞浪土岐明世の)3地区は区域も広い。わかる範囲でいいので、区長会やまちづくり協議会に実態を聞いてみては。

意見 高山市の大八まちづくり協議会は、学校内に事務所がある。そのような発想の転換。瑞浪市も西分庁舎に集落支援員が配置されているが、その地域(土岐町と明世町)に配置されているわけではない。学校との連携を進めたいと思うなら(学校敷地内にあるといい)。

意見 これだけコミュニティ・スクールが一般的になってきたので、やはり学校内に拠点があると活発に動きやすいと感じる。地域の人の集まる場所がそこに集約されるから活動しやすくなる。

意見 世代間交流については、地域のおじいさんおばあさんは出てくるが、子供の親世代は仕事等でなかなか出てきてもらえない。世代間という言葉が何を指すのか、というものはっきりしておきたい。

意見 地域によって活動の差が出てくるのはある意味当然のこと。どうして差が出てきたのか、ということが分析につながる。

意見 「世代間交流」につながっている活動だけでもピックアップしてもらおうといいのでは。

意見 学校運営協議会の中で調査研究について尋ねる、働きかけていく、という活動自体が社会教育委員会の立派な役割。

(調査についての結論)

- ・各地区の世代間交流に着目した実態調査を行う。
- ・今回の議論をもとに、事務局から直接関係団体へ調査依頼(次回定例会までに回答)を送る。
- ・調査した結果を分析した結果、2次調査を行う可能性もある。

4 今後の予定について

- ・11月16日(土)瑞浪市文化祭オープニングイベント
- ・11月20日(水)生涯学習・社会教育総合推進研修会
- ・11月30日(土)岐阜県青少年健全育成県民大会
- ・12月18日(水)第6回社会教育委員会
- ・2月19日(水)第7回社会教育委員会

5 閉会の言葉(副代表)